

(5) 実践事例5 資料を比較させる活動を通した学習問題づくり【単元の導入】

授業の実際 第6学年 江戸から東京へ「明治の国づくりを進めた人々」(第1時/全8時間)

本時の目標

複数の資料から分かることを基に、江戸時代末期から明治時代への変化に関心をもち、学習問題に対する自分の予想を立てることができるようにする。
(社会的な思考・判断・表現)

本時の授業の様子

※写真資料は、著作権及び肖像権に配慮し、処理しています。

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)、授業改善の手立て(〔〕)
<p>1 江戸時代末の寺子屋の様子と明治時代の様子を見比べて、気付いたことを出し合う。 〈学級全体〉</p> <p>① これから歴史の資料を3枚見せます。では、1枚目です。 私たちの教室だ。 現在の勉強している写真です。 歴史の資料なの？</p> <p>② では、2枚目です。 教室で勉強するところは同じです。 時代が違います。 あまり変わらないよ。 間は140年あります。 比べてみて、似ているところは？ 違ってるところは？</p> <p>③ 3枚目です。見比べてみよう。 子供が向いている方向が違います。 間は20年です。 えっ！何でこんなに変わったの？他にも変わったことがあるのかな？</p>	<p>[複数の資料の読み取り方を学ばせる手立て]</p> <p>○現在と明治時代の学校、江戸時代の寺子屋の様子が分かる資料を1枚ずつ順に示し、似ている点や違って点について問いかけ、明治時代を軸として140年後と20年前の様子を比較させることで、江戸時代から明治時代にかけての20年間で大きく変化したことに気付かせた。</p> <p>提示した写真、資料</p> <p>① (現在) 教室で学習する風景【写真】 ② (明治時代) 小学校の様子【教科書資料】 ③ (江戸時代) 寺子屋の様子【教科書資料】</p> <p>思考させる主な問いかけ</p> <p>「似ている(違って)ところはどこですか。」 「どちらが昔でしょうか。」 「間は何年ぐらいあると思いますか。」 「3枚を見比べて気付くことはありませんか。」</p> <p>○教育の視点からの読み取り方を例にして、複数の資料の読み取り方を学級全体で共有することで、児童の他の視点も調べたいという意欲を喚起し、本時のめあてを設定した。</p>
<p>本時のめあて 江戸時代と明治時代の変化を見つけて、学習問題Iをつくろう。</p>	
<p>2 これまでの学習を基に、江戸時代から明治時代へと時代が変わるときにどのようなことが変わったのかを予想する。 〈学級全体〉</p>  <p>変化していると考えられる項目</p> <p>3 変化しているであろう項目の中から調べる項目を決め、3人グループごとに江戸時代と明治時代の変化を見付け、資料に書き込む。 〈学級全体・少人数〉</p>	<p>[調べる活動の見通しをもたせる手立て]</p> <p>○これまでの学習を振り返らせ、教育の視点以外に変化した視点を予想させることで、時代が変わるごとに変化していると考えられる項目(左写真)を確認し、調べる活動の見通しをもたせた。</p> <p>[学んだ複数の資料の読み取り方を使って、複数の資料を読み取らせる手立て]</p> <p>○資料から変化を見付けることが苦手な児童も学習に参加できるように、他教科でも取り入れている3人グループで取り組ませた。</p>

家の壁が木や土からレンガや石に変わっている。

和風から洋風になってきたということかな？

4年生のときにも、国語の教材で習ったね。



仕事グループの書き込み

4 見付けた変化をグループごとに発表する。

アイスクリームやパンなど洋食が食べられるように変化してきました。

〈学級全体〉

牛鍋や牛乳もです。

ということは？

食も洋風になってきたんだ。同じだね。

5 調べた変化を基に、何が原因でどのように変化したのかを考え、学習問題 I を作る。

なぜこんなに変化したのだろうか？

本当なの？

鎖国をやめたんじゃないかな？

何かきっかけがあるはずですよ。

政治や技術など、他の項目も調べないと分かりません。

○学習活動 2 で出てきた項目の中から、視覚的に資料から読み取りやすい「衣」「食」「住」「人々の楽しみ」「仕事」「文化」に絞り、3人グループごとに調べる項目をくじ引きで決めることで、児童が全ての項目を意識しながら、自分のグループでの活動に責任をもち、資料の読み取りに集中できるようにした。

○グループに1枚の資料を与え、3人で資料から分かったことを出し合ったり短い言葉でまとめたりする話し合いを行わせた。話し合ったことは、書き込む係を決め、資料に書き込ませた。

【複数の資料を関連付けて分かったことや考えたことを表現できるようにする手立て】

○調べた変化の中から、各グループ1つだけ発表させることで、最も変化が起こったと考えることや自分のグループが自信をもって言える変化など同じ資料で調べた他のグループと内容が重複しないようにした。

○電子黒板に資料を表示し、「どこからそれが分かったの」と問いかけることで、児童が他のグループの発表に集中し、反応できるようにした。

【歴史的事象を調べたいという意欲を高めながら学習問題 I を児童の言葉を使ってつくる手立て】

○本時のめあてに立ち戻り、全グループが調べた変化から、「江戸時代から明治時代にかけてなぜこんなに変化したのだろうか」と問いかけることで、児童にきっかけや当時の人々の思いを予想させた。

○予想の理由や根拠を問い返すことで、自分の考えが予想の段階であることに気付かせ、どの項目でも言えるかを問いかけることで、まだ調べていない項目「身分」「技術」「武力」「考え方」「学問」「政治」に目を向けさせ、追究意欲をもたせながら、児童の言葉を使って学習問題 I を設定した。

児童と共に作った学習問題 I 「江戸時代から明治時代には、どんなことがきっかけでどのように変わったのだろうか。」

6 学習問題 I に対して予想し、自分の考えをまとめる。 〈個人〉

学習問題 I
江戸時代から明治時代には、どんなことがきっかけで、どのように変わったのだろうか。
(予想)
身分は差別などが多すぎた。たどきから差別がなくなってきたと思う。(平等になった)
技術は人の力でやっていたときから機械を使っていたようになる。たどきから。
政治は鎖国などをして他の国の知識を取り入れていた。たどきから、他の西洋の文化などを取り入れて鎖国をしなくなった。たどきから。

児童が予想を記述したノート

○学習問題 I の解決のために、変わったきっかけとまだ調べていない項目について調べていくという学習計画を立てた。

○これからの学習の見通しをもたせるために、まだ調べていない項目について、江戸時代の様子を振り返らせ、1項目以上の予想をノートに記述させた。

【評価】

【努力を要すると判断した児童への支援】

板書を基に、まだ調べていない項目の中から予

想できそうな項目を一緒に選択し、これまでの学習を振り返らせながら、その理由を考えさせた。



本時の最終的な板書

本時の成果と課題 ○…成果、●…課題

- 複数の資料の読み取り方として、学級全体で1例を取り上げ、1つの資料から順に示し、共通点や相違点など比較する視点を与えながら、読み取って分かったことを共有したことは、資料を読み取る力を高めることに有効に働きました。また、児童が本時の学習を見通しをもつことにも効果があり、児童の主体的な学習へ導くことができました。
- 資料を読み取る力に開きが見える実態を考慮し、3人のグループ活動を取り入れたことは、児童が読み取った情報を基に対話し、どのようなことが分かるのかや考えられるのかを自分の言葉で説明することになり、関連付けて考えたり、総合的に考えたりする力を育成することに効果的でした。
- 児童が調べて分かったことを基に、疑問をもたせたり、予想させたりする問いかけ、問い返しを行い、児童とのやり取りの中で、児童の言葉を使って学習問題を設定したことは、児童の追究意欲を高め、これからの学習の見通しをもたせることにつながりました。
- 本時の評価について、学習問題Iに対する予想を、まだ調べていない6項目について、1項目できたら「おおむね満足」、複数項目できたら「十分満足」として判断する目安を児童と共有しました。しかし、児童が何を基に予想したのかを見取ることが難しくなっていました。単元や本時の目標、評価規準と本時の指導を照らし合わせ、よりよい評価の在り方を探る必要があります。